

立ち上がった後の心拍の回復の速さで高齢者の死亡リスクを予測

ヒトは立ち上がると心拍数が増加し、その後もとに戻るが、その回復の速さが死亡リスクの指標になるかについて検討した。

50歳以上の成人 4,475 例を対象に、立ち上がった後の心拍数の回復速度を測定し、平均追跡期間 4.3 年以内に死亡するリスクを調べた。その結果、心拍数の回復速度が最も遅い群では最も速い群に比べて死亡するリスクが高く（死亡数；69 例 対 14 例）、年齢や基礎疾患、社会経済的情報、体重などの因子を考慮しても、心拍数の回復が最も遅い群が試験期間中に死亡する可能性は回復が最も早い群に比べて 2.3 倍高かった。

したがって、立ち上がった後の心拍数の回復速度で高齢者の死亡リスクを予測できる可能性があることが示唆された。この速度が遅くなるのは副交感神経系の失調によるものと考えられる。

出典：Circulation Research. 2016; 119(5): 666-675